

第8回 札幌イノベーションセミナー
「農業・食とITの融合がもたらす新たな価値とは」
～これからの農業・食を支えるIoT・ビッグデータの可能性～
実施報告（抄）

開催日：2018年1月30日（火）13:30～16:30

場 所：ロイトン札幌 3階 ロイトンホールA

主 催：一般財団法人さっぽろ産業振興財団

共 催：札幌市IoTイノベーション推進コンソーシアム

後 援：札幌市、特定非営利活動法人ITコーディネータ協会、北海道ITコーディネータ協議会

参加者：130社189名

プログラムと内容概略（以下、敬称略）

<司会>



札幌学院大学 客員教授／札幌市ITイノベーション研究会 世話人／ITコーディネータ 赤羽 幸雄

1 主催者挨拶



一般財団法人さっぽろ産業振興財団 専務理事 酒井 裕司

2 【基調講演】「食品加工業における IT 活用による生産性の向上と、その先に…」



池田食品株式会社 代表取締役 池田 光司

○業務体制の問題

- ・従来は手書きで行う作業がとても多かった
 - Web サイトで受注を行うも、その後の作業はすべて手作業だった
 - 手作業による転記ミスを防ぐために、人員を割きダブルチェックしていた。

○IT 化導入後に感じたこと

- ・全てが IT の対象であり、IT 化は激変と捉える
 - IT 化と不便を残す経営の共存が必要と感じた

○現状を社員と共有する

- ・歴史の転換期と経営革新
 - 零細企業に到来したピンチとチャンス
- ・IT 化=経営革新と人材育成
 - 見方が変われば世界が変わる、不便を残す経営は時代遅れではなく、人材育成(人間の成長)のチャンスである
 - 受けて感じるだけではなく、発信する力を身に付けることが人材育成につながる

○IT 導入による業務の合理化が社員同士の連携強化もたらした

- ・社長室の撤廃
 - ミーティングルームの設置
 - 社内異業種交流としての会議の実施
 - お客様が求めるものを考える時間が増えた

○PID 制御(P=比例制御、I=積分制御、D=微分制御)の導入

- ・IT 化とは何かを従業員と話し合う
 - 日常業務の IT 化を理解してもらう
 - 原理がわかってこそ、導入の意味がわかる

○今後の IT 化へ向けた取り組み

- ・業務の自動化を行うためには、現状の業務をどのように実施しているか記録を残すことが必要
 - 作業工程の検証と統一化
 - 機械導入の後、5S が進んできた
 - SNS も充実し、発信力が上がった

○IT 化に必要なこと

- ・失敗は会社の勉強代とする
- ・仕事のために出勤するのではなく、「知恵を出すために出勤する」
- ・決められたことを守るのではなく、「決めたことを守る」

今後の IT 化は在庫と商品動向。ビッグデータの活用など、商品動向が見えてくる。
更に社員の育成、業務環境の改善を進めていく。

3 【特別講演】「IoT は、農業に何をしてくれるのか？」



NK アグリ株式会社 エバンジェリスト 中村 龍太

○新しい農業のかたち

- ・農業経験者ゼロからのスタート
 - 既存の流通規格に合わせた商品は作らない
 - 地域軸ではなく、品目を軸に広域連携
 - “経験と勘”を数値化し、予実管理を行う

○今までの業務管理

- ・データロガー記録したデータを Excel で管理していた
 - 作物異変を確認する際には、目視で確認していた
 - Excel は使い慣れている利点があった
- ・使い慣れた Excel を利用したアプリで新しく業務管理をしたい
 - kintone を導入し、Excel でアプリが作れるように
 - クラウドサービスなので導入コストを抑えられる

○アプリによる業務改善

- ・社員自らがアプリを作成できる
 - 自身の業務領域に対応した生産性向上アプリの誕生
 - 営業と現場の意思疎通がとりやすくなる
 - 終了予測を効率化できるように

○IT がもたらしてくれたもの

- ・業務周りのコストダウン
 - 生産のコストダウンよりも容易に取り組める
- ・需要と供給の調整制度が劇的に向上

- ・社内の結束が高まる
→事実と解釈に基づいた議論が行える

○栽培の難しい「農作物」への挑戦

- ・リコピン人参「こいくれない」の栽培
→味がよく栄養豊富だが、既存流通には乗らない
→形の代わりに中味を保証するバリューチェーンの実施
→地域の旬をつないで一つのバリューチェーンに

○IoT がもたらしてくれたもの

- ・生産地の収穫予測による出荷マネジメント
- ・生産者の経験と勘がデータで裏付け
→生産者との信頼関係アップ
- ・データとの収穫誤差の認識
→改善へ向けた更なる学び

今後の農業は、様々なシーンで先端技術が使われていくが、農業は自然に寄り添うものであり、災害・気象といった自然現象には逆らえないので、収穫予測へ視点を向けた取り組みが重要になってくる。

4 【実践事例紹介】「気象ビッグデータの活用で農業を元気に！」



株式会社ハレックス 代表取締役社長 越智 正昭

○ICTの進化と求められる気象情報サービス

- ・ICTの進化によりニーズが「国・組織」から「パーソナル」へ変化していった
- ・気象情報から気象情報工学へ
→情報利用推進の鍵

○コンソーシアムの発足

- ・気象ビジネス推進コンソーシアムの発足
→気象ビッグデータの活用
→農業への気象データ活用
→気象情報活用の具体的動き

○民間気象会社でしかできないこと

- ・特定利用者向けの気象情報提供
→ビッグデータを用いるために重要なのはアナリティクス（情報の読み方）

- 可視化して気象情報の新しい価値を創出
- ・ information 提供から intelligence の提供へ

○農業への気象データ活用

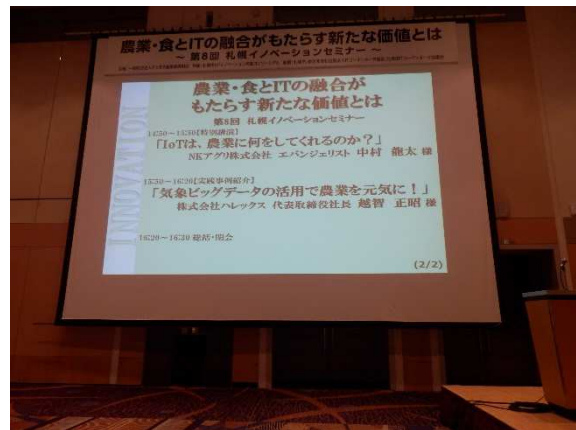
- ・ 自然の持つ二面性を理解する
 - リスクをいかに回避し、プロフィットをいかに増やすかを考える
- ・ 防災と同じレベルの安心安全を追求する
 - 作物は霜で枯れたり、その場から移動できないため、環境・気候風土を保つ必要がある
 - 環境コントロールの実施、リスクマネジメントの実施で経済性・競争力の増加へ繋げる
- ・ 農家の勘をデータにする
 - リスクマネジメントの容易化や、可視化が可能となり、気象データ活用の幅が広がる

農業に限らず、畜産業でも活用している。気象データの活用でリスクマネジメントだけではなく、品質保証も行える。効果的な活用で生産性向上へ向けた取り組みを是非行ってほしい。

<事務局より今後の予定>

- ・ 3/9 平成 29 年度第 3 回札幌市 IT イノベーション研究会 (テーマ: EDI)
 - 参加申込受付中 <https://www.sec.or.jp/elecen/registration/>
- ・ IT 利活用促進事業費補助金は次年度も実施予定 (公募説明会 5/28 にて計画。実施決定次第、別途周知)。その他、IT のビジネスへの展開や、先進的 IT 技術の社会実装の促進に向けた新たな支援制度も計画中。

【セミナーの様様】





ご多忙の折、多数の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

以上